

骨折事故を防ぐために

骨折事故の現状をふまえ、ハード面・ソフト面で対策をして事故を防いでいきましょう

ハード面対策

設備・遊具・玩具は...

具体的に点検・数字で測る

- ・指標や基準^(※)に基づいて点検
※ 国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針(改訂第3版)」、
独立行政法人日本スポーツ振興センター「固定遊具の事故防止マニュアル」など
- ・こどもの目線になり、手で触って確かめる
- ・メジャーなどで高さや幅を把握
- ・職員が実際に遊具を使用してリスクを把握
- ・実際の遊び方をよく観察し遊具は使用対象年齢に沿って使用されているかを確認



危険な箇所から改修・改善

- ・床・段差・角や老朽化している部分等、怪我をしやすところから安全対策
- ・リスクに気付いたらすぐに対応し、後回しにしない

改修以外の設備への工夫も行う

サイン・動線を工夫する

- ・走り出しやすい箇所やぶつかりやすい箇所に、色付きの目印などをつける
- ・家具や収納の配置を変えて動線を改善

 次の事故を防ぐ手がかりを残す

設備等の情報を正確に記録、蓄積

- ・骨折事故が起きた際に、事故に関係した設備・遊具等の素材や大きさ、落下の場合は落ちた高さ等の状況の情報を「教育・保育施設等事故報告書」に記載・提出
- ・現場の写真を撮る
写真に撮る際は、当該設備や遊具等の大きさや高さがわかるようなものと共に撮影しておく



ソフト面対策

職員1人ひとりの気づきと職員の連携を大切に

役割分担と連携の意識をもつ

- ・事故のリスクや改善のアイデアなど、職員の気づきを声にしやすい雰囲気づくり
- ・見守りを複数で行う場合、全体を見る職員と、児童の近くで見守る職員に役割分担をする

組織でヒヤリ・ハットを活用

- ・日ごろから施設で蓄積している、ヒヤリ・ハットに相当する記録をまとめ、振り返り、対応策とセットで整理する
- ・上記の対応やマニュアルについて、リスクが高まる時期(雨天時・連休明け等)に合わせて子どもや職員に注意喚起し、内容の浸透を図る



Point.

ハードとソフトを
組み合わせる実施
～こどもの挑戦を
支える環境づくり～

自然な危険回避と
こどもの気づきを促す

子どもと一緒に考える

- ・肯定的・具体的に言葉がけ、声かけをする
例) 「走ってはダメ」
→ 「ぶつからないようゆっくり歩こう」、
「片付けなさい」
→ 「お友達がつまづかないように片付けよう」等
- ・「なぜ危険なのか」を子どもたちに投げかけ、共に考える時間をつくる
- ・子どもと一緒に考え、こどもの考えを引き出せるような職員育成に取り組む

安全に遊べる環境をつくる

- ・こどもの発達段階を考慮し、遊ぶ場所、使う物の配置、動線、遊び内容、職員配置を工夫する

骨折が疑われる事故が起きてしまった時は…

対象児に対する初期対応フロー

事故が発生

1. 安全の確保

職員がまずは冷静に！
その場にいないこどもたちを落ち着かせる

2. 観察と対応

下記にあてはまる場合は危険！

- ・意識、呼吸がおかしい、会話ができない
- ・出血が多い、骨が見えている
- ・頭部や顔面が骨折している恐れがあるように見える
- ・嘔吐する
- ・激しく痛みを訴える又は激しく泣く

あてはまる場合は119番！
すぐに救急車を！



上記ではないものの下記にあてはまる場合は、無理に動かさず可能な範囲で固定して、病院を受診！

- ・軽く触れると痛がる
- ・内出血している
- ・ひどく腫れる
- ・力が入らない
- ・指などが曲げられない

あてはまる場合は骨折の恐れ！
動かさず可能な範囲で固定して病院へ！



固定のしかた

動かさない こどもが一番楽な姿勢にして動かさないようにし、可能な範囲で固定する。

固定する場合に用意するもの

- ・添え木（段ボール・厚めに折りたたんだ新聞紙などでもOK）
- ・三角巾（バンダナ・ビニール袋などでもOK）

患部の固定

- ・添え木を患部に添えて布で巻き付け固定する
- ・腕の骨折などの場合は、三角巾等で吊るすことができればなお良い

骨折事故発生時は、下記の情報を「教育・保育施設等事故報告書」の「ハード面」と「環境面」の「その他の要因・分析・特記事項」に記載し、状況がわかるよう写真を撮りましょう！

「教育・保育施設等事故報告書」の記述欄に記載する情報

遊具から落下

- ① 遊具名【 】 ② 落下高さ【 】cm
③ 落下した地面状況【土 / 砂 / ゴム / 芝 / その他（ ）】

遊具以外から落下

- ① どこから【 】 ② 落下高さ【 】cm
③ そこにどうやって上ったか【 】
④ 落下した地面状況【土 / 砂 / ゴム / 芝 / その他（ ）】

遊具や設備等に衝突

- ① 衝突したものの名称【 】 ② 衝突したものの素材【 】

- ① 地面・床の素材【フローリング / 土 / 砂 / ゴム / 芝 / その他（ ）】

他の子と衝突や転倒

- ② 空間の広さ【 】㎡ ③ 空間内に当時いたこどもの人数【 】人
④ 遮蔽物【あり / なし】 ⑤ 地面・床の状況【平面 / 凹凸 / 傾斜の有無】

その他で骨折の場合

- 骨折する衝撃を与えた物 ① 名称 ② 素材 ③ 形状 ④ 大きさ（縦・横・高さ）各【 】cm

次の事故を防ぐ
手がかりに
つながります！



事故発生時の連絡先をチェックし、普段から名称と連絡先をメモしておきましょう。

とくに医療機関は、事故発生時を想定し、事前にHP等で診療対象者や受け入れ条件などを確認しておきましょう。

医療機関の連絡先

近隣の総合病院

名称：



近隣のクリニック

名称：



休日応急診療所

名称：



その他関係連絡先

役場 / 区役所 / 市役所（ ）



その他（ ）



その他（ ）



骨折事故を防ぐために、 あなたの施設ではどうする？

施設の状況によって、有効な防止策は異なります。「骨折事故の現状」「骨折事故を防ぐために」を参考にしながら、あなたの施設の課題を話し合い、抽出しましょう。

そして課題に対してどのように対応するかも話し合い、こどもたちにも聞いた上で、「やることリスト」を書き込みましょう。(このまま議事録にも活用できます。また事務室内に掲示することも有効です!)

課題の抽出

記入日： / 記入者：

施設の①ソフト面・②ハード面について、それぞれの視点から見える課題は何か、話し合って記載してみましょう。こども達の考えも聞いてみましょう。

職員から出た意見

こどもたちとも、危険に感じることを考えてみましょう



課題は…

コラム - 話し合いのコツ - KJ法



課題解決の手法により話し合いがスムーズになる場合があります。意見出しには、「ブレインストーミング」「バズ・セッション」、意見の整理には、「KJ法(親和図法)」「SWOT分析」等を活用しましょう。

課題への対応

施設名

でやること

カ条リスト

